

イールドカーブ・コントロール（YCC）の運用の見直し

海外市場のボラティリティ上昇の影響

わが国債券市場の機能度の低下

各年限間の金利の相対関係

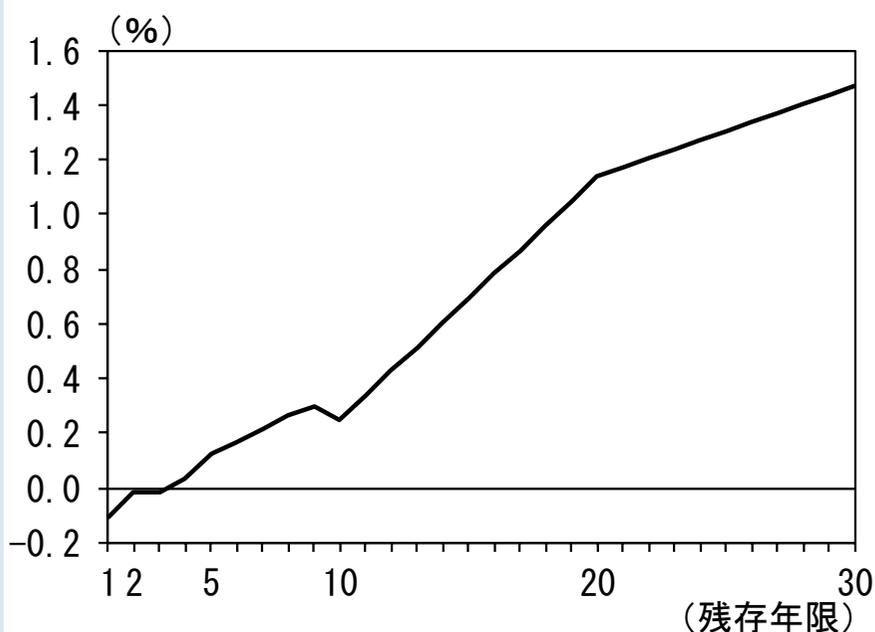
現物と先物の裁定



金融環境に悪影響を及ぼすおそれ

国債金利は、社債や貸出等の金利の基準となるもの

国債のイールドカーブ（12月決定会合前）



(出所) Bloomberg

日本銀行の対応

YCCの運用

より円滑にイールドカーブ全体の形成を促していく

国債買入れ額の大幅増額: 月間7.3兆円⇒9兆円程度

長期金利の変動幅拡大: ±0.25%程度⇒±0.5%程度

各年限における機動的な対応:

10年物の指値オペを「0.5%」で毎営業日実施

各年限で更なる買入れ増額や指値オペを機動的に実施

社債の発行環境に十分配慮して、社債買入れ残高の調整を進める



YCCを起点とする**金融緩和の効果**が、企業金融などを通じて、**より円滑に波及**

金融緩和の持続性を高めることで、「物価安定の目標」の実現を目指していく